

# 宗教はなぜ争うのか

3年2組 32班

## 研究要旨

各地で起こっている宗教問題について問題意識を持ち、中東に焦点を当てて調べた。宗教問題が起こる原因について、仮説1 聖地イェルサレムの奪い合い 仮説2 慣習や風習、思想の違いで対立 仮説3 強国の介入による現状の悪化 の3つの仮説を立てて考察した。研究の結果、仮説3が有力だと分かった。

**キーワード** イスラム教 ISIS パレスチナ

## 1 はじめに

現代の日本では宗教や宗派はあまり重要視されていないが、世界では宗教団体などが関係した戦争が起きており、人々の心の拠り所となるはずの宗教がなぜ暴挙につながってしまったのか気になったため研究した。

## 2 研究方法

### 1) アンケート調査

私たちと同じ年齢の人たちは宗教についてどのような認識を持っているのか調査するために宗教に対する認識についてのアンケートを作成し、3年生4クラスにアンケート調査を実施した。

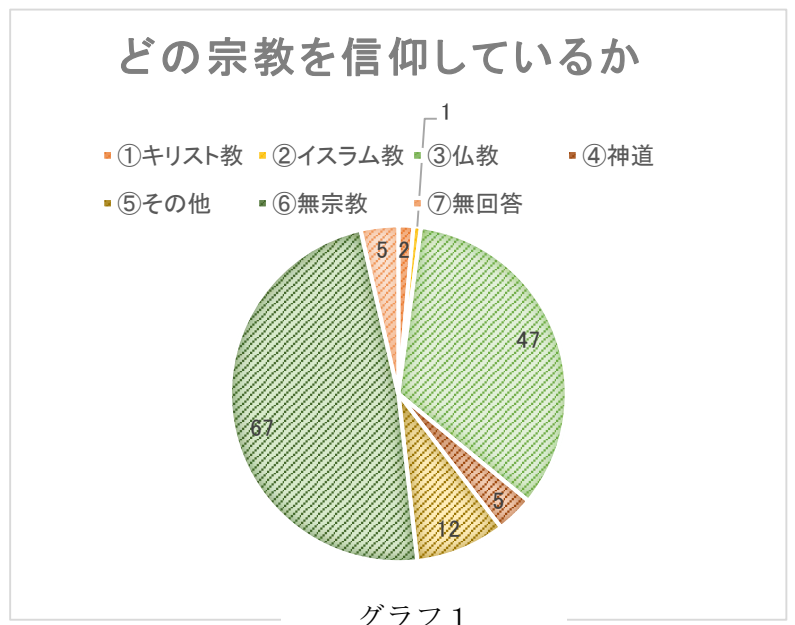
### 2) イスラム教について

イスラム教の起源や歴史、戒律についての二つの面から調べた。

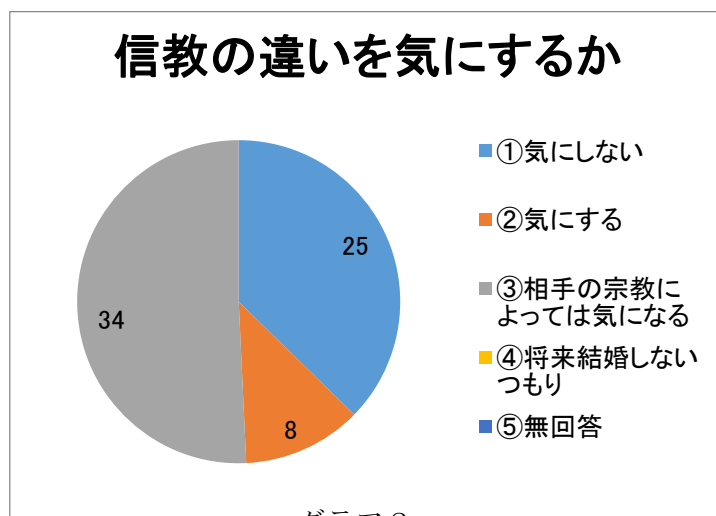
## 3 研究内容

### 1) アンケート調査結果

グラフ1はどの宗教を信仰しているかについての問いに対する回答である。無宗教と答える人が多かった。



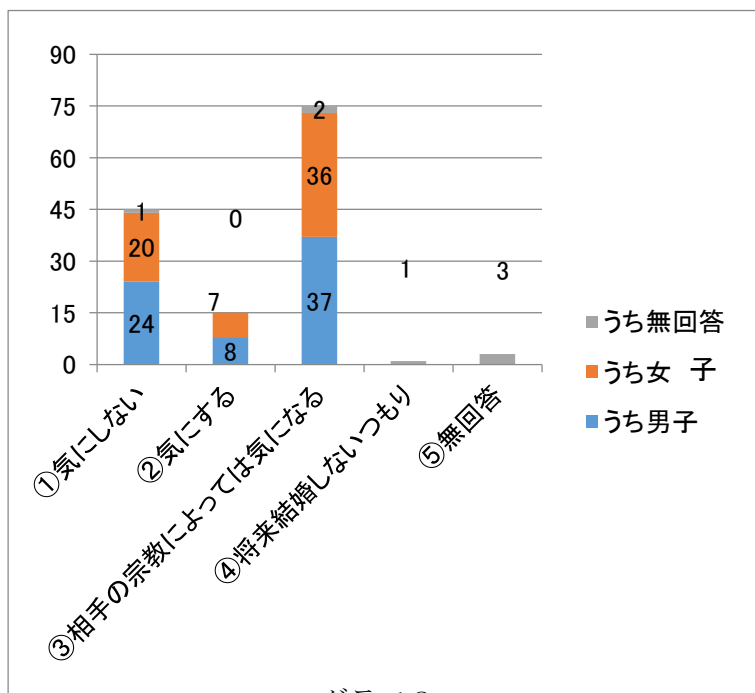
グラフ2は、結婚することになった相手が違う宗教を信仰していた際に、信教の違いを気にするかという問いに対する回答である。



グラフ2

グラフ3はそのうち、無宗教であると答えた人についての内訳である。自分の宗教はないのに、相手の宗教は気にする人が多く、また男女にほとんど差がないということが分かる。

理由としては、自分が相手の宗教に入ることになった際に、戒律や慣習の違いになじめないかもしれないから、というものがあつた。



グラフ3

表1はイスラム教に対してどのようなイメージを持っているかという質問に対する回答で、自由回答を分類したものである。

イスラム教に対するイメージ	人数(人)
厳しいイメージ	49
怖いイメージ	34
いいイメージ	21
単語	14

厳しいイメージ……

戒律が厳しい、女性は肌を見せてはいけない、など

怖いイメージ……

イスラム圏は治安が良くなさそうだ、など

いいイメージ……過激派はごく一部だ、イスラム教が悪いのではなく個人の問題だ、穏やかな人が多い、など

単語……クルアーン、ムハンマド、断食、など

#### ア) 戒律について

イスラム教徒(=ムスリム)は、六信として神(アッラー) 天使 啓典 預言者 来世 予定を信仰し、五行として、信仰の告白 礼拝(一日5回の礼拝) 喜捨(年収から一定額の喜捨) 断食 巡礼を行うことが原則とされている。また、ムハンマドが受けた神の啓示をまとめたクルアーン(コーラン)には日常生活で守るべき規範も示されている。

このことからアンケート調査でもあったようにムスリムにはたくさんの戒律が課せられており、ムスリムの信仰心の強さや神への絶対的な忠誠心が伺える。よって私たちはその強い忠誠心がゆえに他の考え方が受け入れられず、宗教内外で対立が起こる可能性があると考えた。

#### イ) イスラム教の起こり、王朝の変遷、キリスト教との対立について

610年ごろ	ムハンマドが神の啓示を受ける		
622年	ムハンマドがメディナに移る(ヒジュラ)		
630年	ムハンマドがメッカを占領する(ジハード) →教団国家が形成される →イスラム歴の始まり		
632年	ムハンマド病没		
661年	4代正統カリフのアリーが暗殺される ムアウィヤがウマイヤ朝を始める		
750年	アッバース朝成立	} カリフを名乗る	イスラム共同体によって認められた、ムハンマドの後継者
756年	後ウマイヤ朝成立		
909年	ファーティマ朝成立		
		← シーア派をとる イスマイル派を国境化	イスラム教の分裂 アリーとその子孫だけをカリフと認める
932年	ブワイフ朝成立	← シーア派をとる	キリスト教とイスラム教の対立
1038年	セルジューク朝 アッバース朝のカリフにスルタンの称号を与えられる		
1096年 ~1099年	第1回十字軍	→ 聖地イェルサレムを奪還	1270年までに7回にわたる十字軍を派遣

以上のことから宗教対立が起こる原因として、3つの仮説を立てた。

- 仮説1 聖地イェルサレムの奪い合い
- 仮説2 慣習や風習、思想の違いでの対立
- 仮説3 強国の介入による現状の悪化

この3つの仮説を検証するために、

- ① 宗教同士の対立 ②宗教内の対立 の2つに分けて調べた。

## ① 宗教同士の対立について

宗教同士の対立を調べるために、現在問題となっており、戦闘も激化しているパレスチナについて調べた。

### パレスチナ問題とは

イスラエル建国にともなうアラブとイスラエルの対立のことである。パレスチナにおけるユダヤ人国家イスラエルと、アラブ系パレスチナ人およびアラブ諸国の対立を軸とした国際紛争である。1948年のイスラエル建国時のパレスチナ戦争（第1次中東戦争）から始まる4次にわたる中東戦争が続き、なおも対立を続けている。

### パレスチナ問題の原因

ユダヤ人とアラブ人は、ユダヤ教とイスラム教という宗教でも対立するが、本来はこの両者はともにセム系民族であり、ともに一神教という共通点があり、イスラムではユダヤ教を「啓典の民」として認めているので、共存していたものであった。

この両者の対立が始まったのは、もっぱら19世紀末に始まるユダヤ人のパレスチナへの帰還を進めるシオニズム（19世紀末にヨーロッパのユダヤ人の中に高まってきたユダヤ人国家建設運動）と、それを利用して第一次世界大戦において対トルコ戦略を有利に進め、中東に足場をかためて「インドへの道」を確保しようとする帝国主義下のイギリスの外交政策によるものであった。イギリスは大戦中にユダヤ人に対しパレスチナでの「ホームランド」の建設を認めるバルフォア宣言とともに、アラブ人には対トルコ反乱を条件に独立を認めるフセイン＝マクマホン協定を結ぶという「二枚舌外交」（大戦後の中東をフランスと分割することを約束したサイクス＝ピコ協定を加えれば「三枚舌外交」）を行い、パレスチナでのユダヤ人とアラブ人双方の権益に口実を与えた。大戦後、パレスチナは委任統治となり実質的にはイギリスが植民地統治したが、ユダヤ人の移住が多くなりアラブ人との紛争が激しくなると、アトリー内閣は委任統治期限の終了と共に撤退し、問題解決を国際連合に預けることとなった。

### まとめ

はじめは宗教の性質上、それほど対立していなかったユダヤ教とイスラム教であったが、ユダヤ人の帰還に伴い、イギリスが自国の利益のために介入し二枚舌外交を行ったことが原因で状況が混乱し紛争が激化してしまった。よってこれは仮説3の強国（イギリス）の介入による状況の悪化だと分かった。

## ② 教内の対立について

宗教内の対立が起こる原因を調べるために、私たちはアンケート調査であまり知らない人が多かったISIS(イラク シリア イスラム国)について調べた。

## ISIS の現状について

2014 年 6 月末に樹立を宣言したイスラム国は、イラク シリア の中央政府の十分な行政サービスが提供されていない地域を支配し、活動をしている過激組織である。奴隷制度を導入し、見せしめのために首を切断するなどの処刑を行うことで支配する、恐怖政治を行っている。これらの過激派はイスラム教徒も迫害しており、対立が続いている。

## ISIS の成り立ちについて

2001 年に発生したアルカイダ(中東 アフリカを中心に活動するイスラム原理主義に基づく国際テロ組織)による米国同時多発テロをきっかけに、米国内では海外に脅威を残しておくのは怖いという意識が高まった。

それにより今こそ独裁政権であるイラクを崩壊させよという気運が高まった。あるカイダとイラクはまったく関係のない組織だったが、結果米国は 2003 年にイラク戦争に踏み切り、フセイン勢力を崩壊させた。

戦争後、イランに民主主義を取り入れることが大義であった米国は、フセイン勢力を崩壊させた後、歴史的に被支配側であったが人口では多数派であったシーア派が政権を担うべきだと考えた。そこで米国がスンナ派を必要以上に弾圧し、スンナ派の住民は最低限の生活も出来ないほど困窮した。結果、スンナ派の旧軍人が新しい政治に反対して武装反乱を開始し、スンナ派の一般市民もそれを支援し泥沼の内戦となった。

内戦中、米軍やイラクの治安機関は、スンナ派の拘束者たちに拷問や虐待を行い、なかでも米軍が設置した「狼旅団」ではスンナ派を激しく殺戮し、イラク国内の宗派の対立を激しく煽ることになった。

その反米 反政府勢力が現在のイスラム国の起源となる。その後、2007 年から米国はシーア派とスンナ派の和解を試みたが、米国がイラクから撤退した後、イラク政権はスンナ派を裏切ったため反乱は再開。また、シリアの民主主義を求める内戦を機にアルカイダ イラクの勢力がシリアにも拡大し、(反政府勢力に寄せられる武器や弾薬を横取りするため) 結果、イラク シリアを拠点に、ISIS のリーダーであるバグダーディーをカリフとするイスラム国家を一方的に樹立し、「イスラム国」が誕生した。

## まとめ

ISIS は確かに残虐な行為を繰り返す過激な集団であるが、その根底には以前米国の事情により政権が勝手に樹立させられ、激しく迫害されたことに対する反米国 反政府意識があることが分かった。よって ISIS については仮説 3 の強国(米国)の介入による現状の悪化が原因だと分かった。

#### 4 結果・考察

以上のことから、宗教や宗派の対立 (ISIS の場合は一部の思想団の横暴) が激化する原因は、自国の安全や利益のために介入する米国などの強国にあると分かった。

では、一部の地域で紛争の絶えない中東で、国民が安心して暮らせるようになるにはどうしたらよいのか。私たちは中東の社会環境をよりよくするためには、経済と教育が重要になると考え、中東における GDP と教育状況について調べた。

##### ①経済状況

2016 年の名目 GDP (US ドル) ランキングによると、

- 1 位 トルコ 857.43 (世界ランキングでは 17 位)
- 2 位 サウジアラビア 639.62 (20 位)
- 3 位 イラン 376.76 (29 位)
- 4 位 アラブ首長国連邦 371.35 (30 位)
- 5 位 イスラエル 318.39 (34 位)
- 6 位 イラク 167.03 (54 位)
- 7 位 カタール 156.73 (56 位)
- 8 位 クウェート 109.86 (59 位)
- 9 位 オマーン 63.17 (73 位)
- 10 位 レバノン 51.99 (79 位)

このように中東内でも経済は発達しているといえる。中東では石油資源が豊富であり、それが大きな利益をもたらしていることにあるといえるだろう。しかしこのうち、石油資源の集中したいくつかの石油王国 (カタール、サウジアラビア、アラブ首長国連邦 (UAE)、クウェート、バーレーン、オマーン) が中東全体の国内総生産 (GDP) の 60~70% を占めているのが現状である。また、これら石油王国の人口は中東全体の 10% 余に過ぎず、中東の所得不平等は世界最高水準である。2012 年基準で、中東の上位 1% の所得が所得全体に占める比重は 26.2% であり、所得不平等が深刻な米国の 22.83% よりも高いことが明らかになっている。

また、ニューヨーク、ノルウェーの独立系調査会社 R y s t a d E n e r g y の試算によれば、石油の埋蔵量は米国が 2640 億バレルで、ロシアやサウジアラビアを抜いて世界 1 位であることが分かった。(この試算には、現存する油田をはじめ、新プロジェクトや最近発見された油田、まだ発見されていない油田の予測値などが含まれる。) これは、シェールオイルの生産が高まっているからである。シェールオイルは以前、利用が難しいとされていたが、水圧破砕法や新技術のおかげで、世界のエネルギー環境に変化をもたらし、米国が石油生産で世界上位に位置するまでになった。これにより今後石油情勢が大きく変わり、もし石油の価格の下落などが起きれば、中東の経済にも大きな変化が起きると考えられる。

### ③ 教育について

急速に治安が悪化しているイラクからは、200 万人以上の人々が周辺の国々（シリアやヨルダン）に避難しており、そのうち約 50 万人が学齢期の子供である。では、ヨルダンでの教育状況はどうなっているのか。約 632 万人の人口を有するヨルダンは、総人口の約半分が 20 歳以下の若者という若い国家であり、教育振興は非常に重要な政策として位置づけられている。ヨルダンの教育制度は 2 年間の幼稚園、10 年間の基礎教育校、2 年間の中等教育校を経て、大学等の高等教育に進む。ヨルダンの基礎教育校は義務教育となっており、中等教育校の最終学年には年 2 回のタウジーヒと呼ばれる全国一斉検定試験があり、その結果により入学できる大学が決まる。ヨルダンの教育レベルは近隣諸国と比較しても高く、学歴社会で、良い大学を出ることが良い就職につながると考えられている。しかしその一方で、学校の定員オーバー、貧困、児童労働、過去に受けた暴力や拷問のためにひきこもりになってしまうことなどが原因で十分に学べない子供も数多くいるのが現状だ。

1) 2) から、私たちは初めに挙げた仮説 3 が最も有力であると判断した。また、宗教と宗教の対立、宗教内の対立の原因については以下のように考察した。

#### ①宗教と宗教の対立について

複合民族国家において弱い立場にある民族、また地域・国家内で弱い立場にある宗教が迫害を受け、独立運動を起こした際に他国が援助として介入することによって、民族を超えた対立まで規模が大きくなり民族の対立が宗教の対立にまで発展した。(表面上は宗教の戦争に見えるが、実は民族の独立のための戦争なのではないか)

#### ②宗教内の対立について

戒律を重んじる信徒と、大衆化、簡略化、世俗化を目的とする信徒の間で考え方の違いから対立が起こった。

## 5 結論・今後の展望

中東での宗教問題や紛争は、自国の安全や利益のために強国が介入してくることが原因で事態が悪化し、複雑化することで解決が困難になるということが分かった。この状況を改善するためには経済と教育において国家間や国民間の格差を減らし、国民が自国のために働き、どうしたら現状を改善できるのかを考える力を持つことがカギになると考える。



## 6 引用・参考文献

1) 世界の原油（石油）生産量 国別ランキング・推移 - Global Note [www.globalnote.jp](http://www.globalnote.jp)  
絶世の美女がイスラム国で石打ちの刑で処刑 [vipper-trendy.net/isram-syokei/](http://vipper-trendy.net/isram-syokei/)

2) 遅咲きの狂い咲き: 10分でわかる「IS（イスラム国）」の成り立ち  
[welsself.blogspot.com/2016/01/10is.html](http://welsself.blogspot.com/2016/01/10is.html)  
なぜ民主化運動は必ず失敗するのか？ 宗教でも文化でもないその原因と ...  
[logmi.jp/44477](http://logmi.jp/44477)

3) ビケティ教授「テロの原因は経済的不平等」  
[japan.hani.co.kr/arti/international/22661.html](http://japan.hani.co.kr/arti/international/22661.html)

4) 外務省: 世界の学校を見てみよう! ヨルダン・ハシェミット王国 [www.mofa.go.jp](http://www.mofa.go.jp)  
地域別インデックス（中東） | 外務省  
[www.mofa.go.jp/mofaj/area/middleeast.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/middleeast.html)

5) 中東の名目 GDP (US ドル) ランキング - 世界経済のネタ帳 [ecodb.net](http://ecodb.net)

6) 中東問題 / パレスチナ問題 - 世界史の窓  
[www.y-history.net/appendix/wh1601-143.html](http://www.y-history.net/appendix/wh1601-143.html)

7) 教えて! 尚子先生 コーランには何が書いてあるのですか?  
[www.Diamond.jp/articles/-/70004](http://www.Diamond.jp/articles/-/70004)

8) 世界各国の公用語  
[www.traveltouns.jp/languages/official/](http://www.traveltouns.jp/languages/official/)

9) 地図で読む紛争・対立の真相 世界の民族・宗教がわかる本